

「学修支援・生活支援アンケート」について（ご報告）

I R室

生活実態及びニーズ把握アンケートを把握し、今後の学修支援、学生生活支援改善のため、2019年度から学部学生（1～6年次生）を対象に、「学修支援・生活支援アンケート」を実施しています。

2020年度についても、2019年度同様にアンケートを実施しました（2020年9月にWEBを用いて教務課が実施）。

【結果概要（別紙集計データ参照）】

<全体>

- ・対象は2020年度在学学生1,857名（5月1日時点）であり、回答数が740名（約40%）となった。
- ・本年度結果は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2019年度結果から異なる内容が多い。

<学修時間等>

- ・約60%の学生は1日の授業外学修時間（予習・復習）が2時間未満であり、うち約40%が1時間未満であった。
- ・睡眠時間は6～7時間未満の学生が最も多く全体の約40%を占めた。
- ・オフィスアワーを利用したことがある学生は約20%であり、多くは利用経験がない。利用しない理由の4分の3は、存在を知らないか日時がわからないであった。
- ・予習をしていない学生が約30%、復習をしていない学生が約10%であり、復習に比べて予習をしない者が多かった。
- ・多くの者が、ノート、講義用教材、教科書などを使って1人で学習している。

○前回調査結果との主な違い

- ・1日の授業外学修時間が長くなっており、特に1日の3時間以上の割合が増えている（6年次生は5時間以上の割合が増）。
- ・睡眠時間が6～7時間未満の割合が増えている。
- ・予習・復習をしていない割合が減っている（特に3年次生）。
- ・学内WEBサイト、視聴覚教材、インターネット等の外部情報を利用した学習の割合が若干増えている。

<学修支援>

- ・約半数がアドバイザー制度に満足あるいは、どちらかと言えば満足しているが、利用していない学生が約20%いる。
- ・教員のオフィスアワーを利用している者は約20%であるが、満足あるいは、どちらかと言えば満足しているのは約20%だった。

○前回調査結果との主な違い

- ・アドバイザーを利用していない割合が増えている。

<学修成果満足度>

- ・将来役に立ちそうな授業がなかったとする否定的な回答は約5%ほどであり、ほとんどが肯定的であった。ただし、まったくなかったという回答者のうち、5年次生・6年次生の割合がそれぞれ約30%と高い。
- ・肯定的な意見の中では、将来役立つ教育は薬学専門教育・医療薬学教育・実習科目がそれぞれ約30%で多い。しかし、学修成果について満足感を持っているのは約40%であり、あまり満足していない・満足していないという意見が約20%ある。

○前回調査結果との主な違い

- ・将来役に立ちそうな授業がまったくなかったという回答者のうち、5年次生の割合が増えている。
- ・学修成果について満足している割合が増えている。

<クラブ・サークル>

- ・クラブ・サークルに所属していない学生が最も多く、次に体育系クラブに所属している者が多かった。
- ・クラブ・サークルの活動時間は2時間未満が約40%だった。
- ・約70%がクラブ・サークル活動は学業に支障がないとしているが、一方で約20%が何等かで犠牲にしている。
- ・クラブ・サークルに加入していない理由のほとんどが、機会を逸した・理由はないである。中途退部した理由は、興味がなくなった・拘束される・対人関係がそれぞれ約20%であった。

○前回調査結果との主な違い

- ・クラブ・サークルに加入していない割合が増えている（体育系クラブの割合が減）。
- ・クラブ・サークル活動により学業を犠牲にしている割合が減っている。
- ・クラブ・サークルに加入していない理由として、機会を逸した・理由はない割合が増えている。

<アルバイト>

- ・現在アルバイトをしている学生は約60%おり、その多くが飲食店、販売・サービス、学習塾講師である。
- ・アルバイトをしている約70%が平日と休日の両方に就労しており、休日のみは約20%であった。
- ・深夜時間帯に常態として就労している学生が約5%いる。
- ・1週間当たりの就労時間は10～20時間未満が最も多く約40%であり、20時間未満が90%を占めた。しかし、40時間以上と回答した者も3名いた。
- ・アルバイト収入の使用目的は趣味・娯楽が最も多く、次いで貯金、衣・食・住の費用としている。学費としている学生も約10%いる。
- ・先のクラブ・サークル活動と同様に、約20%がアルバイトをしていることは学業に何等かの支障があると考えている。
- ・アルバイトをしない理由として、経済的に不要と回答した者は約30%である。
- ・アルバイトをやめた理由の約40%はクラブ・サークルや学業が忙しくなったためとした。

○前回調査結果との主な違い

- ・アルバイトをしている割合が減っているが（1年次生が増・3年次が減）、平日と休日両方で就労している割合が増えている。深夜時間帯にアルバイトをしている割合は減っている。
- ・アルバイトが学業に支障はないという割合が増えている。
- ・アルバイトをしない理由として、経済的に不要という割合が増えている。

<大学生活全般>

- ・大学生活全般に何等かは満足している学生は約40%であるが、その一方で満足していない・あまり満足していないという学生が約30%いた。

○前回調査結果との主な違い

- ・満足しているという割合が減っており、1年次生の満足していない・あまり満足していないという割合が増えている。